

資料 2

基本構想（案）

平成26年12月3日

構想（案）

（1）基本理念

これまで見てきた現状と課題、委員会での議論を踏まえて、基本理念を次のとおりとする。

これまでの委員会で得た主な意見

- みんなが集まれる広場のような施設。
- いろいろな施設を複合する。
- 若い人も参加できるような、魅力的なまち。
- 市民の人たちがたくさん集まって来て、にぎわいのある場所。
- 高齢者も幼い子どももみんなが出会える場所。
- 防災イコール交流というものを芯にして考える。
- 来やすいもの、見に行きやすいものが常時あると、防災にも生きてくる。
- 道の駅のような考え方をすると、いろいろなところから人が来る。



市民が行き交い、集える、安全で安心な交流と憩いの拠点づくり
～みんなが集まれる広場のような施設～



- 市民が、みんなが集える広場のような施設
- 文化芸術・スポーツの拠点施設（文化芸術＝市民会館周辺、スポーツ＝竜ヶ山周辺）
- 防災拠点施設
- 市民や自衛隊員の交流拠点施設

(2) 基本目標

1) 市民会館周辺エリアの基本目標

- 日常的に多くの人が行き交い、集う施設づくり
 - ・高齢化の進展を視野に入れた、子どもから高齢者まで誰もがアクセスしやすい施設
 - ・周辺施設との連動性を高める施設
- 災害時の防災拠点機能を発揮できる施設づくり
 - ・災害対策本部として活動できる施設
 - ・避難・収容施設として活用できる施設
- 文化芸術の拠点としてふさわしい施設づくり
 - ・自衛隊との交流ができる施設
 - ・一流の文化芸術などに触れることができる施設

2) 竜ヶ山周辺エリアの基本目標

- 日常的に多くの人が行き交い、集う施設づくり
 - ・市内外の人が利用できるスポーツ関連施設
 - ・自衛隊との交流ができる施設
- 災害時の防災施設として活用できる施設づくり
 - ・備蓄機能を発揮できる施設
 - ・航空機事故時に多用途に活用できる施設
 - ・原子力災害時に一時集結所として活用できる施設

(3) 整備構想

委員会での議論等を踏まえて以下でエリア別に構想案を示す。

また、運営計画についても、ハード整備後の継続的かつ効果的な運営を事前に計画することが求められる。

1) 市民会館周辺エリア

■基本方針

- 複合施設として整備する。
- 導入機能の候補は次のとおり。
 - ① 防災拠点、ホール機能、図書館機能、美術展示機能、高齢者福祉機能、会議室機能

- ② 市民会館利用団体

(市民活動センター、境港市民総合ボランティアセンター、青少年育成センター、やすらぎルーム、境港保護区保護司会、境港更生保護サポートセンター)

- ③ 市役所機能の一部 (例：住民票発行等の窓口業務など)

■防災拠点・ホール機能

【視点1】ホールの規模 = 1,000席程度を基準として検討

- ① 1,000席規模の市民会館のホール部分の稼働率が低下(13.6%)している。
(ちょっとした発表会・演奏会は文化ホール(400席)の利用が多く、1,000人規模の公演開催や全席完売というプログラムも少ないことも要因の1つと考えられる。)
⇒「少し多すぎる」「800席以上あれば良い」という指摘があった。
- ② ホールの規模については、単純に稼働率等の数字だけで判断すると小さい方が財政上良いことになりがちであるが、芸術分野において合理性だけで判断することの妥当性の検討も必要と考えられる。
⇒小さくすることで、質の低い公演しか来なくなり、それがさらに集客効果を低減させるという指摘があった。
⇒各種コンサートでは、クラシックでは過剰という指摘がある一方で、自衛隊との交流という意味では、「ふれあいコンサート」は現状でも不足という指摘もあった。

【視点2】ホールの特質（固定式／可動式）

① 質の高いコンサート等を誘致できる音響を確保する。（固定席）

② 多目的な利用を可能とする場を確保する。（可動式）

⇒可動式の場合、避難所としての防災拠点機能を、より色濃く複合可能。

（「境港市地域防災計画」「境港市広域住民避難計画」「境港市津波ハザードマップ」では、市民会館は、「一時避難所及び収容避難所、津波一時避難所」で、一定期間の避難生活（避難所開設の開設期間は、災害発生の日から7日以内。）を送る可能性が前提。）

【視点3】駐車場の確保

① 駐車場の整備は近隣の公立文化施設では、総席数に対する駐車台数の割合が、概ね約10%～30%程度の規模となっている。これを参考にすると、市民会館の席数を1,000席と想定すれば、駐車台数は100台～300台の範囲となる。（現状：平日60台（5%）、休日260台（23%））

② 週末の公演時等の対応に対しては、市役所駐車場などとあわせて、周辺の駐車場（土曜日、日曜日を営業日としない施設など）との協力の可能性も、今後の検討課題の1つと考えられる。

③ 交通アクセスについては、駐車場とあわせて、はまループバスやタクシーなどの回転広場、乗降場の確保等、公共交通機能の利用利便の向上も、今後の検討課題の1つと考えられる。

■図書館機能

- スペースが手狭であり使い勝手に課題
- 市民が集まり、交流し、知識や情報を取得する場であり、また自ら発信もできる場
- ゆっくりと図書等を閲覧できるスペース
- 乳幼児等と一緒に楽しめる空間、乳幼児が遊べるスペース
- 近隣高校生等の利用の場
- AV等ソフトの貸し出しや閲覧コーナー
- オムツ替え等できるトイレの整備
- 整備後は、蔵書数の拡充とあわせて、新たな図書館のあり方をマネジメントできる人材が必要

（足を運びたくなる施設としての運営ノウハウ、情報発信等のアイデアを持つ人材、ワークショップ等を企画運営できる人材）

■美術展示機能

- エントランス・ロビーやホール、会議室等を利用した各種展示機能を確保することで、絵画展や作品展の開催を担保。

■高齢者福祉機能

- 社会福祉協議会などの事務所機能の複合化

■会議室機能

- ① 平常時には一般的な会議室としての利用（現在ある会議室の規模等は確保することを前提）
- ② 災害時には情報の集約、関係機関の連絡調整等を執り行う場
⇒災害発生時における市の災害対策本部の規模の確保（人員、資機材、ネットワーク、報道機関の待機・会見場所等）

■市役所機能の一部

- 市役所機能の一部（例：住民票発行等の窓口業務など）を複合施設に付加し、他の利用とあわせて1ストップでサービスを楽しむ施設

2) 竜ヶ山周辺エリア

当エリアに求められる機能は、「健康づくり」と「防災」である。健康づくりの拠点エリアであることと、防災活動の拠点エリアであることを改めて追及していくことが求められる。

■基本方針

- 夕日ヶ丘地区の人が利用しやすい屋内型体育施設
- 支援物資等を備蓄できる屋根付きの施設が必要
- 導入機能の候補は次のとおり。
 - ① 屋内型体育施設
 - ② 備蓄機能
 - ③ 合宿所機能
 - ④ 散策機能



事例写真：大分県日田市の屋根付き広場

■屋内型体育施設、あるいは屋根付き広場

① 平常時の利用からみた規模の想定

⇒夕日ヶ丘地区の地区体育館として、幸神体育館、渡体育館と同程度の規模を想定する。

施設名	敷地面積 (㎡)	建物面積 (㎡)	施設内容
幸神体育館	1,163	513	体育室 444 ㎡
渡体育館	1,235	785	体育室 644 ㎡

出典：境港市の概要 Data Book 2014

② 災害時の利用からみた規模の想定

居住スペース : $7,200 \text{ ㎡} = 2,400 \text{ 人} \times 3.0 \text{ ㎡/人}$

※避難所の有効=3 ㎡ (境港市地域防災計画)

施設名	種類	有効面積 (㎡)	計画収容人員 (3 ㎡/人)
市民会館	会議室	648	210 人
	ホール	1,300	430 人
市民体育館	体育館	2,574	850 人
	会議室	78	20 人
第二市民体育館	体育館	1,288	420 人
幸神体育館	体育館	443	140 人
渡体育館	体育館	701	230 人

出典：境港市地域防災計画

■備蓄機能

- 市の現状の備蓄を分散し、屋内型体育施設の1室に、必要最小限の備蓄を確保する。

■合宿所機能

- 調理・炊き出し、シャワー・温浴施設の確保 など
- 平時には合宿所として、簡易宿泊施設として機能を確保
- 災害時には炊き出しができる拠点施設としての機能を発揮

■散策機能

- 竜ヶ山公園のクロスカントリーコースや、中海沿いの親水護岸、中海干拓地の既存のウォーキングコースの利用